



「はたちの願い」 作文・詩の優秀作品が決定

新成人を対象に「はたちの願い」をテーマにした作文と詩を募集し、次の皆さんが入賞しました。

なお、入賞者は1月11日開催の成人式式典で表彰しました。

●**最優秀賞** 西川美里(大東町)
〈敬称略〉



「社会の一員として責任を持って行動すべき存在となり、世間からも厳しい目で見られていくことを自覚しなければならぬ」と語る西川さん。作文を下記に紹介します。

ただし、内容は主旨を損なわない程度で要約しています。

●**優秀賞** 西岡美穂(美園町)、
芋坪智穂(大東町)、深松葵羽(大東町)、奥藤修一(大東町)

問▼青少年の家

(☎76)3432

二十歳を迎えて

西川美里

私は高校卒業後、親元を離れて就職進学をし、「保育者として働きたい」という進路実現へ向けての道を進んでいる。会社へ正社員として就職し、一日8時間働きながら大学の授業に出て、三年間で大学を卒業するという具合である。

両親に負担を掛けないようにと自分で選んだ道であるのだから、辛くなっても、絶対に諦めたくない、弱い自分に負けたくないと思いい、頑張っている。

頑張っているからこそ学ぶことも多い。正社員として仕事をすることは責任が重く、一歩間違えれば会社に大きな損害を与えてしまうことにもなりかねない。先輩や上司に叱られ、または褒められながら、社会の一員として成長することができていると思う。

成人したからといって「何が大きく変わる」という感じはしないけれど、成人して今までできなかったことができるようになることはある。

昨年の8月30日に行われた衆議院議員選挙に、選挙日の数日前に

誕生日を迎えた私は、選挙権を手にし、投票所へ足を運んだ。それまではあまり興味が無かった政治に関心を持つようになり、ニュースを見たり、周りの先輩と政治の話をしたりするようになった。私自身、不思議と政治に関心を持つようになったことに驚いている。選挙という国のこれからの在り方を決める大切なことで、有権者として責任を実感し、政治に関心を持つきっかけになったのだろうと思っている。

二十歳になり、社会人としての様々な権利を得た分、それに勝るくらいの責任を持たなければならぬことを自覚し、今からの人生を歩んで行こうと思う。

あと一年で卒業し、保育の道へ就職することができれば、本格的に社会人として自分の決めた道を進んでいくことになる。途中で諦めたくなくても、乗り切っていくことができる強い精神を養いながら、頑張ってみよう。

そして、私を産み、ここまで育ててくれた大切な両親に、社会人として立派に生活している自分を見せてあげたいと心から思う。